

WWLプログラム 課題研究の論文指導の手立て

－ フィードバックシートを用いて －

概要

3年の総合的な探究の時間「グローバル探究III」の最終課題は、これまでチームで取り組んできた課題研究を約4,000字の研究論文にすることであるが、同授業内の論文作成の作業に意欲的でなかったり、論文の内容が不十分である生徒がいる。これらの課題を解決するために、google jam boardを用いて、研究論文に必要な観点をまとめた「研究論文フィードバックシート」を作成し、生徒に互いの論文を相互評価させた。その結果、多数の生徒が意欲的に相互評価を行い、この一連の手立てを行った事前・事後の研究論文を分析した結果、後者の方が優れた論文になった。

研究の流れ

0. 「研究論文フィードバックシート（仮）」の作成

- 研究論文に必要な骨子を事前に作成（生徒には提示しない）

50期 3年生 研究論文フィードバックシート

- タイトル（主題・副題）***[記入例1]**
 - 主題：研究の問、対象（人・地域など）が明確に書かれている
 - 副題：問に対する解決方法（アクションプラン）が明確に書かれている
- 概要（サマリー）
 - 研究の背景・目的・研究方法・結果・考察・結論がすべて簡潔に書かれている
 - *この概要だけを読んで、論文の全体像が分かるように記載されているか
 - *以下の項目ひとつひとつが記載されているかチェックしましょう
 - 研究の背景 □目的 □研究方法（対象を含む） □結果 □考察 □結論
- 序論（研究の背景・研究目的・意義）
 - 先行研究を通して、客観的な現状・事実・データが書かれている
 - 先行研究から明らかになったこと、まだ解明されていないことが区別できている（まだ解明されていないことを本研究で明らかにする）
 - まだ解明されていないことを解決する意義が分かる
 - 先行研究のまだ解明されていないことを解明するための仮説が書かれている
- 本論（研究方法・対象、結果、考察）
 - 仮説を検証するための研究方法（手順や対象）が具体的に書かれている
 - 検証結果が客観的に書かれている
 - 検証結果から明らかになったこと、今回の研究ではわからなかったことの考察が説明されている（たとえ同じ検証結果であっても、考察の仕方は様々です。検証結果から論理的な考察が書かれているか）
 - 今回の研究でわからなかったこと、予想した結果がでなかったものに対して、新たな仮説が書かれている
- 体裁
 - 「～です」「～ます」ではなく「～である」など言い切りの形で書かれている
 - 参考文献の記載方法 **[記入例2]**が正しく書かれている

1. 評価のためのきじゅんレクチャー

- 規準（観点）と基準（尺度）
- 相互評価の意味

2つのきじゅん

気候変動の対策としてあなたにできることは？

我が国では電力のほとんどが火力発電によって供給されているおり、化石燃料を燃焼させることで、温室効果ガスであるメタンが大気に出されているため、発電方法を見直せばいいと思います。

「具体性」の尺度

理由とともに個人でできる対策が書かれている

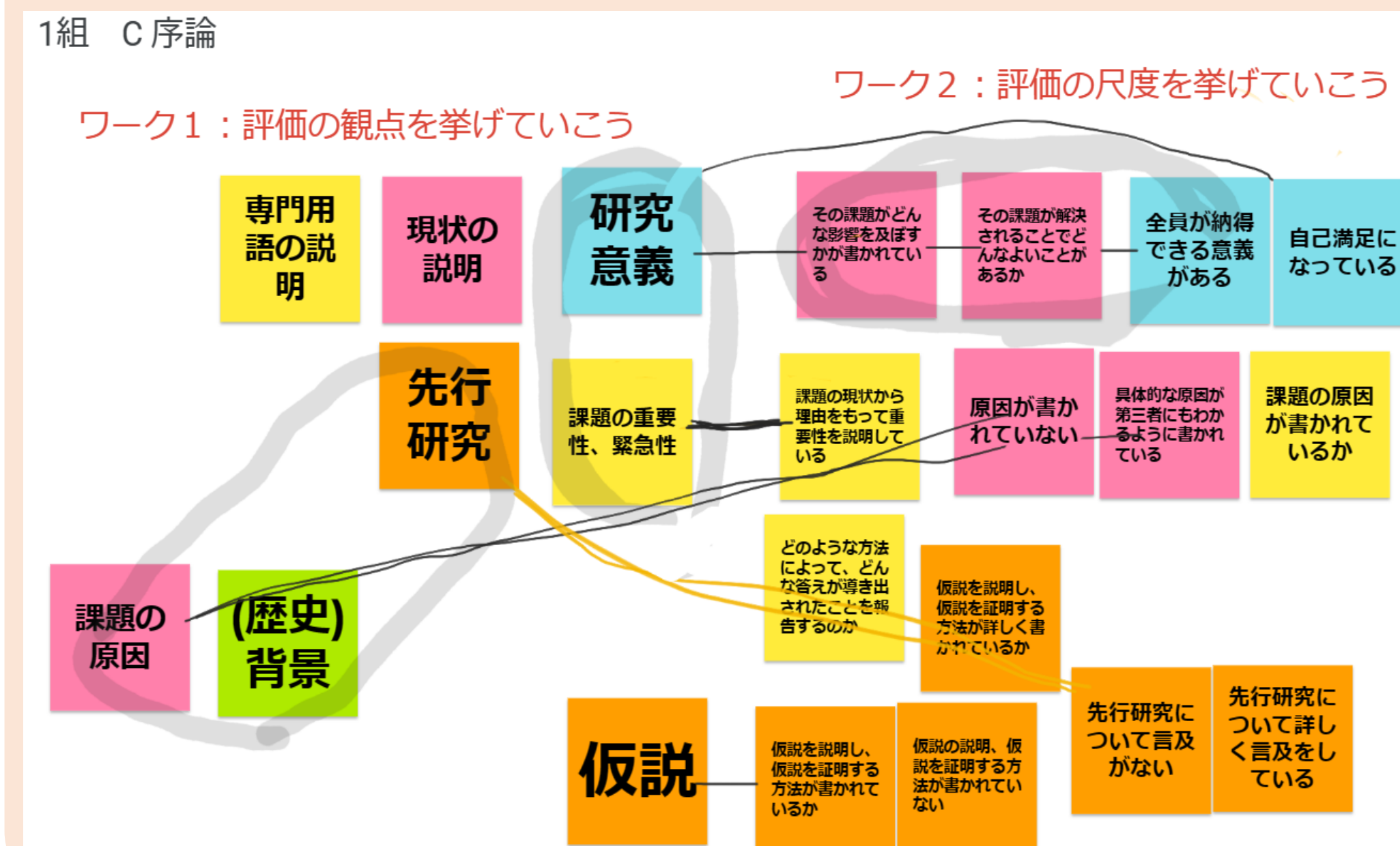
尺度基準

個人でできる対応策が書かれている

対応策が書かれている

2. 評価の規準（観点）と基準（尺度）をjam boardを使って考える

- A：タイトル・体裁 / B:概要 / C:序論 / D:本論のいずれかの項目
- 発散思考⇒分類分け



3. 「研究論文フィードバックシート」完成

- 生徒のjam board、学年団の意見などをもとに、「論文フィードバックシート」を作成

50期 3年生 研究論文フィードバックシート

- [A]タイトル（主題・副題）***[記入例1]**
 - [A1]主題：研究の問、対象（人・地域など）が明確に書かれている
 - [A2]副題：問に対する解決方法（アクションプラン）が明確に書かれている
 - [A3]主題と副題を読めば研究内容がある程度予想できる
- [B]概要（サマリー）
 - 研究の背景・目的・研究方法・結果・考察・結論がすべて簡潔に書かれている
 - *この概要だけを読んで、論文の全体像が分かるように記載されているか
 - *以下の項目ひとつひとつが記載されているかチェックしましょう
 - [B1]研究の背景 □[B2]目的 □[B3]研究方法（対象を含む） □[B4]結果 □[B5]考察 □[B6]結論
- [C]序論（研究の背景・研究目的・意義）
 - [C1]先行研究を通して、客観的な現状・事実・データが書かれている
 - [C2]専門用語の定義を説明している
 - [C3]先行研究から明らかになったこと、まだ解明されていないことが区別できている（まだ解明されていないことを本研究で明らかにする）
 - [C4]まだ解明されていないことを解決する意義やその重要性が分かる
 - [C5]先行研究で明らかになっていないことを解明するための仮説が書かれている（**背景・目的・意義・仮説**の筋が通っている）
- [D]本論（研究方法・対象、結果、考察）
 - [D1]仮説を検証するための研究方法（手順や対象）が具体的に書かれている
 - [D2]検証結果が客観的に書かれている
 - [D3]検証結果から明らかになったこと、今回の研究ではわからなかったことの考察が説明されている（たとえ同じ検証結果であっても、考察の仕方は様々です。検証結果から論理的かつおもしろい考察が書かれているか）
 - [D4]今回の研究でわからなかったこと、予想した結果がでなかったものに対して、新たな仮説が書かれている
- 体裁
 - 「～です」「～ます」ではなく「～である」など言い切りの形で書かれている
 - 参考文献・データの記載方法 **[記入例2]**が正しく書かれている
 - 文体やフォントが統一されている
 - 効果的に図や表が用いられている

4. 「研究論文フィードバックシート」を基に相互評価

- 提出されている論文を印刷し、各生徒に他の生徒2～3人の論文にコメントをする

5. 相互評価コメントの返却 / 論文の改訂

結果・考察・まとめ

今回行った一連の授業に対して、ほとんどの生徒が前向きに取り組んでいた。特に「フィードバックシート」を使った相互評価では、全ての生徒が、他の生徒の論文を真剣に読み、建設的なフィードバックをしている姿を見ることができた。「相互評価の意義」のアンケートの結果、約94%の生徒が有意義に感じていた。また、自由記述回答では「具体的な数値がないなど、自分だとなかなか気づけないことも人の論文だと気づける」「「概要」に、結果・考察・結論までを書けていた人が少なかった」「考察の書き方など自分の論文にたりていないところに気付くことができた」「フィードバックシートに沿って書かれている論文は読みやすかった」など、自分の論文に活かすことができる気づきが見られた。

最後に7人の研究論文の事前・事後を分析した結果、全てが事後の論文の方が優れていた。特に「概要」「研究の意義」の変化が顕著であった。事前の論文の「概要」には、研究の背景・目的・研究方法までの説明で終わっていたが、事後の「概要」には、結果・考察・結論の説明まで行われていた。「研究の意義」が事後の論文には明確に記述されていた。また、事後の7人の研究論文はフィードバックシートの骨子の流れに沿って記述されていた。